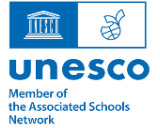




# 大松台

令和7年3月21日発行号



〒206-0034 東京都多摩市鶴牧6丁目4

TEL 042-337-4010

## すべての子供が幸せになる学校

校長 森田 康之

この一年間、「すべての子供が幸せになる学校」と題して、その時々にか考えたことやみなさんに知っていただきたいことを書いてきました。

わたしは最近知ったのですが、YouTube などの動画を見るときに再生速度を速めてみる事ができるんですね。そうやって時間を有効？に使うことを「タイパ」と呼ぶようです。タイムパフォーマンスをあげるために動画の再生速度を上げる。なるほど、よく考えたものだと思います。

一月の学校だよりで、「学校の多様性」について文科省の資料を活用しながら紹介しました。才能の多様性・障害の多様性・通学の多様性・家庭環境の多様性・言語の多様性・体調の多様性・性の多様性…。

この現実を前にして、何からはじめるか考えたとき、わたしは“対話”からはじめようと考えました。まずは、知ること・聴くことからはじめようと考えたのです。

「校長は対話を大事にしたいというけれど、そうならない！」とお叱りの言葉をいただいたことがあります。もしかすると、ある教員とは対話にならなかったかもしれません。しかし、本校には対話のできる教員がたくさんいます。ですから、どうか一人の教員だけで、学校とは対話が成り立たないと判断せず、対話のしやすい教員(誰でも構いません)と対話を続けることで、お互いを分かり合っていきたいと思うのです。

上に書いた、【タイパ】と【対話】というのは、真反対にあるのだと思います。

話を聴くこと・考えや思いを知ることは、時間のかかることです。話を聴いて分からないことがあったら、質問をしてより理解するように努めます。時間がさらにかかります。そして、自分の考えや思いを伝えます。うまく伝わらなかつたら、伝わるように表現を変えたり、目に見えるようにあらわしたりすることも必要です。また時間がかかります。一度で分かり合えるとは限りません。

一方的に流れてくる動画ではないのです。相手の速度を変えることはできないのです。

お互いを知り、理解し合うためこと自体が、時間がかかることなのです。

対話が必要なのです。

そのことにタイパや合理性を求めると自体、無理なことなのではないかと思っています。

子育てに、タイパや合理性を求めると自体、無理があると思っています。

家庭と学校が対話を続ければ必ず前に進むと信じています。